

# 地方からの女性投稿者を 新たな視点で追う！

日露戦後から第一次大戦以前に刊行された、明治期を代表する  
女性文芸投稿雑誌『女子文壇』。本資料は『女子文壇』に掲載された  
文章のうち、本文を除く個々の情報――

【刊行年月日】・【巻号】・【執筆者の居住地】・【執筆者名】・  
【分類】・【題目】・【内容】・【頁】を整理・分類して、  
完全データベース化したものである。

# 『女子文壇』 執筆者名・記事名 データベース

監修・解説 金子幸代（富山大学人文学部教授）

◎体裁―DVD1枚＋解説ブックレット

◎価格―二〇、〇〇〇円＋税

◎刊行―二〇一一年一〇月



不二出版



刊行年月日	巻号	執筆者の居住地	執筆者名	分類	題目	内容	頁
M38・1・1	1・1	秋田	佐々木さく代子	美文	投稿	天賞「美しい水、清い水」	27
M38・1・1	1・1	駒込	嶋野みさ子	美文	投稿	地賞「初春」	27-28
M38・1・1	1・1	静岡	山本娟婦子	美文	投稿	人賞「山里の秋の夕暮」	28
M38・1・1	1・1	澎湖島馬公城内	山門若葉	美文	投稿	秀逸「千人塚」	29
M38・1・1	1・1	神戸	中村さく	美文	投稿	秀逸「雪の山家」	29-30
M38・1・1	1・1	近江	宇多花子	美文	投稿	秀逸「新年」	30-31
M38・1・1	1・1	澎湖島馬公城内	若葉女史	美文	投稿	秀逸「すみれ」	31-32
M38・1・1	1・1	千葉	時岡よし子	美文	投稿	秀逸「破窓録」	32-33
M38・1・1	1・1		岡田茄子	美文	投稿	「冬のゆふべ」	33-34
					投稿	「橋畔の柳」	34-35
					投稿		35
					投稿		35-36

# 刊行にあたって

金子幸代 (富山大学人文学部教授)

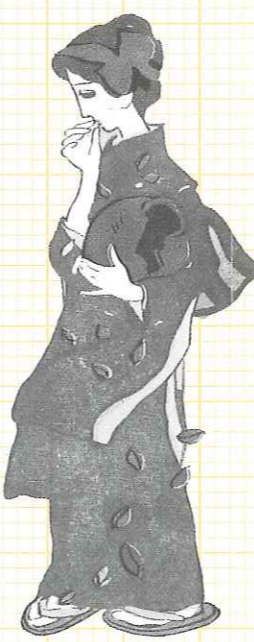
『女子文壇』は、『青鞥』前夜を彩る女性雑誌の中でも『青鞥』とも関係が深く、影響を与えあつた明治期を代表する女性投稿雑誌である。明治三八(一九〇五)年一月一日発行の第一巻第一号から、大正二(一九一三)年八月一日発行の第九巻第一一号まで、号数継続の臨時増刊を加えて全一三二号が刊行された。女性の表現欲の受け皿として、また女性の読書欲を満たす場として、投稿する女性たちに大半の誌面を自由開放しながら、彼女たちに競争意識を持たせて、表現欲や力量を高める役割を果たした。有名・無名を問わず全国から限なく投稿者を獲得しており、「地方」に住む文学少女たちの登竜門であった。

本資料は、この『女子文壇』の掲載内容のなかでも、とりわけ既存の文献から抜け落ちていた、当時無名の地方の「投稿者」(誌友)の表現活動に焦点をあて、ジャンル別に整理したデータベースである。第一号の投稿欄を例にとると、掲載年月、年・号、執筆者とその居住地、「美文」「消息文」「雑文」「短篇小説」「新体詩」「短歌」「俳句」などの分類、内容(タイトルおよび入賞など)評価の有無と頁数が一覧表示される。また、一般投稿のほかに、「意見を闘はし主張を述べ、交際を求むるの便となす」ことを目的に設置された読者交友欄「誌友倶楽部」や「はがき文」などの投稿者についても丁寧にデータを集計し、これを分類収録した。特に情報流通が遅れ孤立化していた「地方」の女性たちは、投稿という手段で、いかに世界を広げ、どのように自己実現をはかっていたのか。日露戦争下から大正のはじめの「新しい女」台頭期の女性たちに発表の場を提供しており、社会・文学・文化・女性史など、様々な問題に携わる研究者のリソースとして、本資料が活用されることを願ってやまない。

『女子文壇』総目次をCSVとMicrosoft Excel®でご提供。総目次には収録されなかった、一般投稿者の詳細データも完全網羅。

掲載項目(列)  
 ◆刊行年月日 ◆巻号 ◆執筆者の居住地 ◆執筆者名 ◆分類 ◆題目 ◆内容 ◆頁

第一巻第一号 一九〇五(明治三八年)一月一日	表紙	山中 古洞	表紙	木村 小舟	25
表紙題字	三宅 花圃	表紙	藤谷 小波	26	
初日の出(水彩画)	三宅 克己	口絵1			
巻頭題字	吉田 晩稼	前付1			
名譽賛成員	前付2	前付3			
選評諸茶肖像	口絵2				
名家文壇					
軍国婦人の任務	坪谷 水説	1			
独逸哲士の婦人観	堀谷川天溪	3			
男女の別を正しうすべし	小川 直子	5			
女子文壇の発行を祝す	高橋 邦三	7			
歌の糸口	大和田建樹	9			
国文評釈 竹取物語(一)	中内 蝶二	11			
春のうた	東久世通禎	15			
破窓の寒梅	堀井 雨江	16			
水車小屋	佐々木信綱	21			
あ、一年—先師秋の舎先生の一通年忌に	尾上 英舟	22			
湯の宿	大塚桐穂子	23			
女子文壇の発行を祝して	園分みさ子	24			
家庭と下女との関係	湖月	25			
御題お伽断	冬季吟				
美文	消息文				
雑文	短篇小説				
新体詩	短歌				
俳句	投書家諸君へ一言				
編輯たより	婦人界實報				
愛国婦人会の地方遊説/本郷の婦人会/救世軍の婦人/外国人と愛国婦人会/女子養育院/婦人の一放つ、の寄贈	寄書歓迎要項社告				
第一巻第二号 一九〇五(明治三八年)二月一日	表紙	山中 古洞	表紙		
表紙題字	三宅 花圃	表紙			
本誌の批判(女学世界評/大坂朝日新聞評)	写真口絵	早稲田の雪(三宅克己)/皇太子妃殿下、皇長孫			
迪宮殿下、皇次孫淳高殿下/棚橋純子女史、奥村					



M38・1・1,1・1., 秋田, 佐々木きく代子, 美文, 投稿, 天賞「美しい水、清い水」, 27  
 M38・1・1,1・1., 駒込, 鳴野みさ子, 美文, 投稿, 地賞「初春」, 27-28  
 M38・1・1,1・1., 静岡, 山本娟婦子, 美文, 投稿, 人賞「山里の秋の夕暮」, 28  
 M38・1・1,1・1., 澎湖島馬公城内, 山門若葉, 美文, 投稿, 秀逸「千人塚」, 29  
 M38・1・1,1・1., 神戸, 中村きく, 美文, 投稿, 秀逸「雪の山家」, 29-30  
 M38・1・1,1・1., 近江, 宇多花子, 美文, 投稿, 秀逸「新年」, 30-31  
 M38・1・1,1・1., 澎湖島馬公城内, 若葉女史, 美文, 投稿, 秀逸「すみれ」, 31-32  
 M38・1・1,1・1., 千葉, 時岡よし子, 美文, 投稿, 秀逸「破窓録」, 32-33  
 M38・1・1,1・1., 長野, 恩田苑子, 美文, 投稿, 「冬のゆふべ」, 33-34  
 M38・1・1,1・1., 越後, 五十嵐富美子, 美文, 投稿, 「橋畔の柳」, 34-35  
 M38・1・1,1・1., 豊後, 大島菊子, 美文, 投稿, 「追憶」, 35  
 M38・1・1,1・1., 東京, 柳きよみ子, 美文, 投稿, 「なき母」, 35-36  
 M38・1・1,1・1., 伊予, 坂梨雅子, 美文, 投稿, 「寒紅梅」, 36-38  
 M38・1・1,1・1., 八代女学校, 本島とよみ, 美文, 投稿, 「花を見て亡き友をおもふ」, 38-39

## 内容見本

※データを表計算ソフトなどで開いた時の画面例

刊行年月日	巻号	執筆者の居住地	執筆者名	分類	題目	内容	頁
M38・1・1	1・1	秋田	佐々木きく代子	美文	投稿	天賞「美しい水、清い水」	27
M38・1・1	1・1	駒込	鳴野みさ子	美文	投稿	地賞「初春」	27-28
M38・1・1	1・1	静岡	山本娟婦子	美文	投稿	人賞「山里の秋の夕暮」	28
M38・1・1	1・1	澎湖島馬公城内	山門若葉	美文	投稿	秀逸「千人塚」	29
M38・1・1	1・1	神戸	中村きく	美文	投稿	秀逸「雪の山家」	29-30
M38・1・1	1・1	近江	宇多花子	美文	投稿	秀逸「新年」	30-31
M38・1・1	1・1	上野	国紫雲女史	美文	投稿	「月下の想」	39
M38・1・1	1・1	名古屋	戸田政子	美文	投稿	「露営の月」	39
M38・1・1	1・1	麹町	ゆかり女	消息文	投稿	天賞「雪見に招く文」	40
M38・1・1	1・1	千葉	呉たけ子	消息文	投稿	地賞「虚飾を戒むる文」	40-41
M38・1・1	1・1	兵庫	山本菊子	消息文	投稿	人賞「出軍の兄に遣はす文」	41-42
M42・10・1	5・13	大阪	吉田勝子	誌友倶楽部	投稿	交際を望む	150
M42・10・1	5・13	四谷	柳の人	誌友倶楽部	投稿	記者と読者	150
M42・10・1	5・13	石川	夏水女	誌友倶楽部	投稿	記者と読者	150
M42・10・1	5・13	神奈川	柚木とよ子	誌友倶楽部	投稿	絵葉書を好む	150
M42・10・1	5・13	岡山	桐木昌子	誌友倶楽部	投稿	絵葉書を好む	150
M42・10・1	5・13	金沢	後藤芳子	誌友倶楽部	投稿	品物交換	151
M42・10・1	5・13	鳥取	松田千代子	誌友倶楽部	投稿	品物交換	151
M42・10・1	5・13	北海道	池田元子	誌友倶楽部	投稿	写真	151
M42・10・1	5・13	大阪	東艶子	誌友倶楽部	投稿	写真	151

\* CSVデータとは、各項目(情報)がカンマ[,]で区切られた拡張子「CSV」のテキストファイルです。Microsoft Excel®やAccess®等に読み込んだり、お手持ちのテキストエディタで独自の加工を行うことも可能です。

## 『女子文壇』執筆者名・記事名データベース

監修・解説 金子幸代（富山大学人文学部教授）

体裁—DVD1枚+解説ブックレット

価格—二〇、〇〇〇円+税 ISBN978-4-8350-6691-2

刊行—二〇一二年一〇月

★DVDには、小社刊『女子文壇』解説・総目次・索引」で割愛されていた、一般投稿者の表現内容や居住地などの詳細データも収録。  
 データ活用の利便を考慮し、同内容のデータを、保存形式の異なる2種類のファイル(CSVとMicrosoft® Excel®)で提供。

渡邊澄子 解説

## 『女子文壇』解説・総目次・索引

A5判・上製・492頁・定価18,000円+税

ISBN978-4-8350-5065-2

女子文壇社刊（明治三八年〜大正二年刊）

## 女子文壇

全五四巻・別冊一



別冊 解説（渡邊澄子）

総目次・索引

菊判・上製・総約二五、〇〇〇頁

各配本定価 九〇、〇〇〇円+税

揃定価 九九〇、〇〇〇円+税

推薦 阿木津英・飯田祐子・上笙一郎

竹盛天雄・米田佐代子

第1回	第1〜5巻	(明治38年1月〜明治39年2月)	ISBN978-4-8350-5000-3
第2回	第6〜10巻	(明治39年3月〜明治40年2月)	ISBN978-4-8350-5006-5
第3回	第11〜15巻	(明治40年3月〜明治41年2月)	ISBN978-4-8350-5012-6
第4回	第16〜20巻	(明治41年3月〜12月)	ISBN978-4-8350-5018-8
第5回	第21〜25巻	(明治42年1月〜8月)	ISBN978-4-8350-5024-9
第6回	第26〜30巻	(明治42年8月〜明治43年3月)	ISBN978-4-8350-5030-0
第7回	第31〜35巻	(明治43年4月〜11月)	ISBN978-4-8350-5036-2
第8回	第36〜40巻	(明治43年11月〜明治44年7月)	ISBN978-4-8350-5042-3
第9回	第41〜45巻	(明治44年7月〜明治45年4月)	ISBN978-4-8350-5048-5
第10回	第46〜50巻	(明治45年5月〜大正2年1月)	ISBN978-4-8350-5054-6
第11回	第51〜54巻・別冊	(大正2年2月〜8月)	ISBN978-4-8350-5060-7

\*表示価格はすべて税別

## 不二出版

〒113-0023

東京都文京区向丘1-2-12

電話03-3812-4433

ファクシミリ03-3812-4464

振替00160-2-94084